

会 議 録

| | | | | |
|--------------------|-----|---|-----------------------------|-------------------------------|
| 会議名 (審議会等名) | | 相模原市社会教育委員会議 (第1回) | | |
| 事務局 (担当課) | | 生涯学習課 電話042-769-8286 (直通) | | |
| 開催日時 | | 令和5年7月3日(月) 午後2時~午後4時 | | |
| 開催場所 | | 相模原市立総合学習センター 2階セミナールーム | | |
| 出席者 | 委員 | 12人(別紙のとおり) | | |
| | その他 | 0人 | | |
| | 事務局 | 10人(生涯学習部長、外9人) | | |
| 公開の可否 | | <input checked="" type="checkbox"/> 可 | <input type="checkbox"/> 不可 | <input type="checkbox"/> 一部不可 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | 傍聴者数 | | |
| | | 0人 | | |
| 議 題 | | (1) あいさつ (2) 副議長選出 (3) 小委員会委員について (4) ヒアリング調査の結果について (5) 小委員会からの報告及び提案に基づく協議 (6) グループ討議 (7) その他 | | |

議 事 の 要 旨

(1) あいさつ

生涯学習部長あいさつ

古矢議長あいさつ

古矢議長の進行により議事が進められた。

(2) 副議長選出について

(古矢議長)

社会教育委員の副議長の選出につきましては、相模原市社会教育委員会議規則第2条で委員の互選で定めるということになっている、立候補、推薦はあるか。

(小林委員)

副議長は相模原市公民館連絡協議会から推薦されていたので、今回も市公連から推薦されている大久保委員を推薦する。

(古矢議長)

ただいま副議長を大久保委員にお願いしたいとご意見があったがいかがか。

(全委員)

全員賛成。

(3) 小委員会委員について

(古矢議長)

小委員会について現在2名欠員だが、選出区分については過去の定例会で、学校教育関係者と、社会教育の関係者という事で、承認をいただいている。学校教育の関係者という事であれば、奈良田委員にお願いするということになるが、異議はあるか。

(全委員)

異議なし。

(古矢議長)

続いて社会教育の関係者について立候補、推薦はあるか。

(若林委員)

小委員会の委員は、大谷前副議長にお願いしていた経過もあるので今回も公民館連絡協議会推薦の大久保委員を推薦する。

(古矢議長)

大久保委員の推薦があったが、異議はあるか。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

小委員会委員は学校教育関係者として奈良田委員、社会教育の関係者として大久

保委員にお願いします。

(4) ヒアリング調査の結果について

ヒアリング調査の結果について、事務局から資料について説明があった。

(古矢議長)

ヒアリング調査の説明について質問、意見はあるか。

(秦野委員)

各委員が、ヒアリングの結果と事務局がまとめたのを比較して不足している部分があるか確認が必要ではないか。

(全委員) 確認をすることを了承

(古矢議長)

前回定例会から時間が経っているので、振り返りをしたいと思う。社会教育委員会会議では仮主題を立てて、3本の柱をその下に据えて、これまで議論を重ねてきた。

この仮主題の「公民館を核とした地域づくりの新たな展開」と3本の柱、これについては今後整える過程で変わることもあるので、みなさんから現時点での意見をいただいたうえで、進めたいと思うが意見はあるか。

(全委員)

意見なし。

(古矢議長)

前回の小委員会まで振り返ったところで、小委員会からの報告と提案をお願いします。

(5) 小委員会からの報告及び提案に基づく協議

秦野委員から小委員会からの報告と提案について次のとおり説明があった。

今回の調査研究報告書も教育委員会へ提出するものではあるが、多くの人に手に取ってもらえるようなものにしたい。

装丁は堅苦しくない、表紙は親しみあるタイトルにする、文章は論文調ではなく中学生でも読めるような書き方、ヒアリング調査、アンケート調査で貴重な意見をたくさんいただいているのでコラムや吹き出しで入れられると良い。

調査結果や集計結果をそのまま載せると気軽に手に取ってもらえなくなることも考えられるため、別冊・概要版を作成したらどうかという意見があった。コラムには専門部員とか職員の声を載せたい。

公民館マップは区ごとの簡単なマップに各館推しのポイントを書いて載せる。

「社会教育委員とは」というページについては、「社会教育委員とは何ですか」という質問があったため、社会教育委員の紹介的なページを最初に配置する。

まとめた経過、公民館について考える必要性、3本の柱でも触れていることやSDGs、居場所としての公民館、これらの今まで議論してきた内容を報告書に入れる。

課題を並べるより社会教育委員が相模原市の公民館にこのようになってほしい、愛される公民館になってほしいという提案を入れたい。

報告書は読んで積まれておしまいというのではなく、活用してもらえるものにしたい。

本文には公民館の未来像、社会教育委員の願い、アンケートやヒアリングに見える共通点を整理して記載する。

今後の事業、講座の考え方、評価の基準について参加者の数ではなく内容を評価するよう見直していく必要があるのではないかという意見があった。

定例会、アンケートを通じた意見として、部屋の利用方法予約方法について、地域の茶の間の的にふらりと公民館に来てもらえるような提案をしたい。

人材について、公民館の皆さんは地域の方々が輝けるよう大変な苦勞をされているが、職員の異動によって人脈が無くなることのないよう、人材バンクなどを提案をしたい。

立地、人口分布の問題から横並びでの事業展開が難しいため、館、地域の特色を生かした事業内容にしていくのも良いのではないか、すべての公民館横並びで実施することが難しい事業は区に1つ専門的に実施する公民館を拠点として位置づけ複数館合同で企画することなどを提案したい。

職員研修については外部から招くのではなく、内部講師、先輩職員から学ぶ、館相互の意見交換ができると良い意見があった。

以上、小委員会で協議の後、古矢議長と事務局で調整をした結果について報告するとともに、各委員にお配りした資料を調査研究報告書の案として定例会に提案します。

(古矢議長)

ただいまの説明と提案について質問、意見がありましたらお願いします。

(全委員)

質問、意見なし。

(古矢議長)

今私たちが目指している報告書には、2つの面があると私は考えている。1つ目は市民と公民館をつなぐ仲立ちをするもの。市民の方の中には公民館に全く関心がない、あるいは、使ったことはあるが、使いにくいという方もいるでしょう。一方で公民館職員の方はとても熱意があり、こんなことをしたいという意見もある。そのような職員がいる公民館と市民の仲立ちをする役割、市民の方に、わかりやすく導いていけるような、これならちょっと読んでみたいという内容にしたい。2つ目は公民館職員の皆さんにエールを送ると同時に、いくつかの提案を盛りこむことになろうかと思う。なだらかに市民から職員へというグラデーションを付けてこの報告書をまとめたらどうかと思っている。

育ちあう職員について職員研修の問題が取り上げられている。外部講師でなく先輩職員から学ぶ機会、館相互の意見交換など書かれているが、講師をやっても良いという職員がいるはず。何館かで役割分担して、研修をやっても良いと思うが、これは市民の方にとっては全く対極にある問題で、あまり関係が無いと思う。しかし、貸室の利用方法と予約方法について書かれていて、予約システムで予約しにくい、あるいは団体登録しないと利用できない、そういうのは市民の方にも喫緊の問題。そのようなことを勘案してどこにどれだけの厚みを持たせて書き込んでいくか、構成を考えていけば報告書はできあがると思う。そこに思いを馳せてディスカッションをしたい。

(6) グループ討議

小委員会の案についてグループごとに議論を行い、終了後にグループ発表をしていただく。

グループ討議終了後

(古矢議長)

第1グループから発表をお願いします。

(石川委員)

報告書としての体裁について文字だけで書くのは非常にわかりにくいのではないかと。未来像ということにしても、その下に課題とか、今回のアンケート等から見えてきた現状があって初めて未来像が必要だというのが見えてくると思う。アンケートの現状あるいはそこから出た課題、それに対する方策があつての未来像というのがイラスト等で描かれているとよいという意見があつた。

拠点公民館について、地域によって子どもたちが非常に増えている場所があり、高齢者が多いところと特徴が違う。そのような地域の人たちは子どもたちが集まれる安全な場所としての公民館を求めているかも知れない。それについてどのような内容が良いのか、拠点公民館として上から出すというやり方もあるが、その地域の保護者の方々がどのようなものを望んでいるのか、PTAなどでアンケートをとるなど一緒に企画していく、同じような特徴を持つ公民館同士で集まってもいいだろうし、サポーターとして保護者たちも入ってくれる可能性もある。積極的に活動していく中で地域とつながり、よい循環ができるのではないかと。自分たちの希望した企画が公民館で実行されれば地域に対する愛着が出てくると思う。また、実行公民館として社会的課題について勉強するというのも大事だということ、育ちあう職員について、ここは職員の有用感のようなものが育てられるような形で、「自分たちが楽しくやれる」、「こういうこともできる」ということが職員同士でやれたら良いが、時間がないと今まで通りのやり方を継続してしまいがちになる。どのようにしたらそこを抜け出して新しい企画ができるのか、全て職員に任せるのではなく、

サポートする手段を考えても良いのではないかという意見が出た。

(古矢議長)

次のグループをお願いします。

(若林委員)

報告書はパンフレットのようにあれば手に取ってくれるかも知れない、公民館を使って行ってほしい年代は、小中高生の両親や30代の方たちだろうと思っている。その方たちに手に取ってもらうためには、QRコードなどを活用して文字は少なくするという意見があった。その他に手に取りやすくするため挿絵や漫画を活用する。中高生で絵を描くのが大好きな子たちをお願いして描いてもらってはどうかという意見があった。

公民館によって差はあるとは思うが、ある公民館は隣が小学校なのに、子どもたちが来ない、本当は来てほしいが、フリースペースのような設備が無い、そのような設備を作ることができないかという話があり、空いている部屋があればフリースペースに変えていくなど、公民館によっては常に予約で埋まっている館もあるとは思うが、実際に全部の部屋が予約で埋まっていることは少ないと思うので、そういう所を使って子どもたちの居場所を作る、学校に行かれない子でも、公民館であれば1人でも落ち着いて勉強できる、そのような使い方もあるのではないか。

(金子委員)

そのような子どもたちに来てもらえるようにするためにも、この報告書を読んでもらいたいが、小難しい、堅苦しいものにしてしまうと、そのような子どもたちは手に取らないと思う。

(古矢議長)

引き続き、第3グループをお願いします。

(秦野委員)

まず、まとめの報告書として「誰に」というところが決めかねた。使い方としては、公民館でこれから事業を企画しよう、運営しようとする時には必ず読んでもらえるものにしたい。また、未来のデザインというのは、公民館だけの問題ではなく、地域をこのようにしたいから公民館にはこうあってほしいということがあると思うが、この報告書の中でまちづくりの議論までは盛り込むことができないので、地域をどのようにしていくのかというきっかけ作りになるとよいという意見が出た。

これまで報告書という出して終わりだったが、そうではなく、公民館の職員が読んで「こんな実践をしました」あるいは「報告書に載ってないけど、うちはこのいい事例がある」というのを出してもらい、それをフォロー版のような形で、事例集として、公民館に返す、双方向にできたら嬉しいという意見が出ていた。それが報告書の第1章になるのかわからないが、報告書の活用への願いです。

次に未来デザインの膨らませ方として、公民館のオープンスペースについて、報

告書で書いても現実にならないと理想論で終わってしまうため、本当にできそうなことを書く。例えば「この部屋は夕方の4時から6時の間は比較的利用が少ないから曜日限定で使える」など公民館によっては可能な方法で、それが週1回でも月1回でもこの部屋なら自由に使えるということを実行できる館から行ってはどうかということを書く。この報告書が出ることによって、オープンスペースが1館でも2館でもできたら良い。Wi-Fiが使える部屋と合わせて使えると良い。とにかく、できるところからできることを、全館揃わなくても良いという意見が出た。

次に公民館の名前について、中学生以下限定で愛称を募集して2年ごとに変えるなど、自分がつけた名前が使われることで公民館に愛着を持ってもらえるという意見が出た。隠れた人材、まだ公民館で活躍されていない方がたくさんいるので、その人たちをどのようにしてつなげば良いか、というアイデアを出していきたいということと、子どもたちは大人が見守り環境を与れば安心して物事に取り組む、チャンスを与えれば考える力はたくさんあるので、期間限定の企画委員になってもらう事業などを提案できたら良いという意見も出た。そのほかに若者へのメッセージをどこかに書きたい、丁寧な説明を要するところは「何年版の社会教育委員会議のこの提言を読んでください」という感じでURLを書いても良い、文章で今までの研究や報告をなぞるのではなく、「詳しくはここ」という感じでこれまでの成果もつないでいけるというご意見が出ました。

(古矢議長)

3グループから発表いただきました。質問がありましたらお願いします。

(小林委員)

第1グループの発表で現状、課題、方策、未来図、とありましたが、僕は未来像、デザインをしっかり論議して、それに向かっていくにはどのようにしていくかと考えていた。まず、現状から課題を抽出して簡単に結論なんか出さない方が良いと思っている。未来像はしっかりと、こういう街を作りたい、こういう地域にしたいということを市民の声、主権者として論議する。それには公民館はこうあるべきだろうというアプローチが必要。アンケートやヒアリングの結果で、論議するのも良いが、地域から子どもたちや高校生や大学生や大人が「私たちはこういう地域をつくりたい」という声があって、それについて公民館はどうあるべきか論議する。地域像を最初にデザインして、それから意見をぶつけるのが手かなと僕は思っている。

(石川委員)

私たちは、このアンケートと、ヒアリング調査の結果に基づいて、未来像というのが作られたのだろうと考えていたので、この未来像はあったほうが良いと思っていた。やり方的に現状から入ると面白くないかもしれないというのがあって、未来像を前面に出しても構わないという話をした。

(小林委員)

一定の時間で報告書をまとめるとなると、非常に難しい。報告書を出すのと並行して、これからの活動として未来像づくりを仕上げていくことも可能性として考えないとといけない。

(秦野委員)

本当はそれまでできれば良いが、年内にまとめなければならない中で、地域をどうしていくかということころまではまとまらない。今ある材料で公民館がこうなると良いというもの、おっしゃっている未来像があり、これまでの様々な意見を反映した書き方をしていく、この報告書がきっかけになって「こういう街づくりができる」と良い」というところに行くようなイメージで繋げたい。ここでまた新しいことを入れるわけではない。

(石川委員)

今ある資料、材料の中で作り「将来こんなところまで繋がったらいいですね」という提案はされて良いとは思う。

(古矢議長)

確かに未来像をパッと出してそこから議論をしていくという方法があり、一般的な、私たちが慣れ親しんでいる方法もあって、両方よく考えてみれば良いのではないか。

(金子委員)

その未来像みたいなものを表紙に入れたい。中学生から愛称をもらうのであれば、手に取った時に公民館の未来像の漫画というか、絵とともにかわいらしい愛称、親しみやすい愛称が表紙にあれば見てもらえそうな気がする。

(古矢議長)

各グループ発表は愛称募集とか、絵、漫画とか、皆さん同じような思いを抱きながら発表されている。全体的話として各グループが発表した内容でどうか。思いがいくつか出ているところで、改めて気になるのは「誰に向けての冊子か」が気になる。内容によって、市民により近い内容であるとか、専門部や公民館職員の方に、読んでほしい、そういう内容もあるのではないか。どのようにして打ち出すか、そこが1番難しいと思う。もう1つは、立派な報告書出来あがっても誰が実践するのかというのが1番大変。

(秦野委員)

公民館の職員が企画または運営する時、その前に読んでもらいたい。公民館を使った事が無い人、若い人は薦めても手に取ってくれないのではないかという心配があるので、市民も見やすい、「なんだかよくわかんないけど」手に取って「読んでみようかな」という雰囲気にはしたい。しかし、書いてあることは「こんな公民館だったら使いたいです」という提案なのか、「こんな公民館だったらいいな」とい

う市民の声や、「公民館職員の声を聞いてまとめました、どう思いますか」というところで、公民館と市民、両方、決めかねている。若い人向けになると書ける内容も減ってしまう、願っただけでいっぱいなのは「どうすればいいの」となってしまう。公民館職員が見た時に活用できないものではもったいないと思っている。企画しよう、運営しようという時に聞いてもらいたい。

(石川委員)

市民向け、利用したことのない人向けであれば、公民館の利用の方法、企画の立て方を付録でもいいから後ろに入れておいて、公民館の研修の、職員向けであれば企画の立て方、市民からのアイデアをもらう方法とか、協働するための方法とか、その方法論みたいなものをまとめておいたら使いやすいのではないかと。映像だとさらにいいと思う。

(秦野委員)

ある程度まとめたものと概要と分けて考えて、概要版は本当にイラスト多様で、中学生から見てもらえるものにして、利用方法とか、企画の立て方などを書いたものをたくさん配架できるようにし、本編は詳しく丁寧に書く2部構成にしてはどうか。

(大久保委員)

報告書は何部くらい、対象はどのくらいの層を対象にしているのか。報告書の部数は各公民館、地域に配布する予定なのか。というのは、職員は報告書というのは必ず見る。そして、それを常にその手元に置いておくので、何回となく見られるような報告書を作り、部数について考えてほしいと僕は前から思っている。公民館に何冊ではなく、職員が手元に携えて常に見られるように、見ながら行動できるような形にしたい。予算の問題があるとは思いますがその辺りが気になっている。

(金子委員)

公民館に数冊配布、若い人に見てもらいたいと言っても、公民館に行かないと見られない。

(大久保委員)

可能であれば公民館のホームページで公開する方法もある。

(古矢議長)

皆さんから出された意見、アイデアを整理したいが、構成を切り出す必要があると思う。今日の意見などを踏まえて、どのような構成にするかを小委員会で検討したいがそれでよいか。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

10月上旬ごろまでに構成案をお示しするという事にしたいと思います。ご意見

はありますか。

(全委員)

意見なし。

(古矢議長)

もう1つ、構成をするにあたって、アンケートの結果、この中からどういう要素を抽出すると1番良いのか、報告書として生きてくるのか。また、以前収集した事例について絞り込みも考えておいてください。

(7) その他

古矢議長から5月8日の神奈川県社会教育委員連絡協議会1回理事会と5月12日の全国社会教育委員連絡協議会について出席の報告があった。

神奈川県社会教育委員連絡協議会について、これまでは役員として古矢議長が副会長に選任されていたがここで改選があり、相模原市から役員の選出は無くなった。

古矢議長のあいさつにより、会議を終了した。

以 上

令和5年度 第1回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

| | 氏 名 | 所 属 等 | 備 考 | 出欠席 |
|----|--------|---------------------------------------|-------------|-----|
| 1 | 奈良田 久 | 相模原市立小学校長会 | | 出席 |
| 2 | 金子 友枝 | 相模原市文化協会 | | 出席 |
| 3 | 小泉 喜亮 | 相模原市PTA連絡協議会 | | 出席 |
| 4 | 大久保 宗俊 | 相模原市公民館連絡協議会 | 副議長 | 出席 |
| 5 | 安西 信行 | 相模原市青少年関係団体連絡会 | | 出席 |
| 6 | 大橋 千景 | 虹のおはなし会 | | 欠席 |
| 7 | 若林 由美 | 一般社団法人星と虹色なこどもたち | | 出席 |
| 8 | 石川 利江 | 学識経験者(桜美林大学教授) | | 出席 |
| 9 | 秦野 玲子 | 学識経験者(RE Learning代表) | 小委員会 委員長 | 出席 |
| 10 | 古矢 鉄矢 | 学識経験者(学校法人北里研究所参与) | 議長 | 出席 |
| 11 | 小林 政美 | 学識経験者(特定非営利活動法人男女共同参画 さがみはら 副代表理事) | | 出席 |
| 12 | 海野 浩 | 公募 | | 出席 |
| 13 | 水谷 英正 | 公募 | | 欠席 |
| 14 | 雨宮 健一郎 | 特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク | | 出席 |